Twitter
YouTube

明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.205
2023
3.28

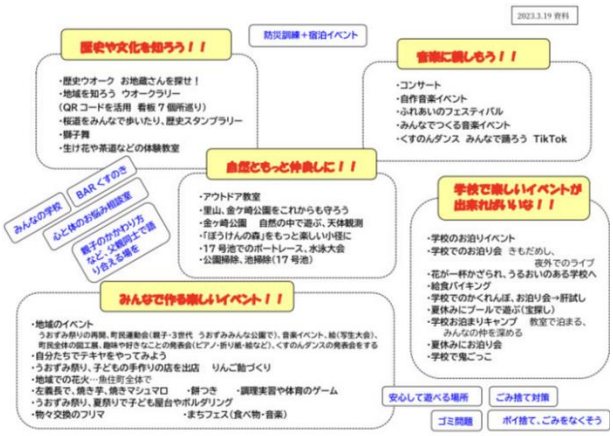
明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

教科を超え、学びをつなぐ　“ファシリテーション”

3月19日（日）に “MIRAI KURASU Labs”さん主催の公開シンポジウム“ファシリテーションで授業を変える、学校が変わる”が開催され、姫路市立山陽中学校から5人の先生方が登壇され、先生方からは①研究の「キセキ」、②授業の「キセキ」その１、③授業の「キセキ」その２、④授業の「キセキ」その３の実践報告、そして校長先生からは⑤学校の「キセキ」として、ファシリテーションを柱として、今年度の重点目標として“学校は大きな転換期、急激な変化に「生徒も先生も変わらなきゃ」”と“姫路一の大規模校でも「大味で大雑把な」指導はしない”を掲げ、学校づくりへの熱い思いとはっきりとしたビジョンを聞かせていただきました。私自身、中学校では学校全体で一つの研究に取組むのは難しいという先入観を勝手にもっていました。しかし、どの教科でも “話し合い”に“ファシリテーション”の手法を取り入れた授業づくりをすすめることで、“話し合い”のための“話し合い”ではなく、問題解決のために必要な対話する力が教科の壁を越え、学校教育全体で培われていくんだと感じさせていただきました。また、先生方の中でも何か課題が出てくると、「ちょっとファシろか」と先生同士で対話が始まるといった報告を聞きながら、心理的安全性が確保された職員室なんだろうなと思いました。 朝霧小学校が“わくわく あさぎり ラボラトリー”で提案されたように、心理的安全性が確保された職員間の対話が学校を活性化させるんだろうなと思いました。こうした、ファシリテーションの手法を用いながら地域の皆さんや、保護者の皆さんとの対話が始まっていけばいいなと思っています。

※ファシリテーションとは「会議やミーティングを円滑に進める技法」。参加メンバーの発言を促しながら、多様な意見を理解・整理し、重要なポイントを引き出し、議論を広げ、最後には議論を収束させ合意形成をサポートするこうした一連の行動。（参照：GLOBIS CAREER NOTE）

対話の中からうまれるカリキュラム



明石でも地域づくりや、学校運営協議会での対話の中でそんなファシリテーションの手法を導入した対話がすすめられています。

魚住まちづくり協議会さんでは今年度“くすのん広場”として地域の大人だけでなく、地域の子どもたちも参加して地域の未来に向けて話ができる対話の場をスタートされました。8月、10月、12月、2月とこれまで4回の“くすのん広場”が開催され、今年度のまとめの会が3月19日（日）

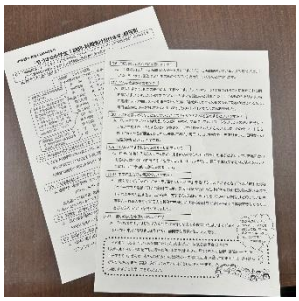
に開催されました。魚住小学校の 5・6 年の子どもたち 30 名が自主的に参加し、これまでの 4 回の対話をまとめたものをベースにテーマごとに分かれ地域の方と一緒に、実現させたいことを話し合われたようです。その中から実現するものが出てくるのが楽しみです。こうした対話を世代や立場を超えて重ねていく中で、地域社会総がかりで人が育つ仕組としてカリキュラムになっていくのではと感じました。そんな対話が始まっているんですね。

また、3 月 10 日に開催された鳥羽小学校の学校運営協議会では、今年 1 年を振り返って来年度に向けての熟議がおこなわれました。これまでも学生さんを招いたりしながら、学校の課題や地域の課題をテーマに熟議を重ねてこられました。そうしたこれまでの熟議が、学校で、そして地域でこんな学びができたらといった今回の熟議につながっているのではと感じます。1 年の学校生活の報告で終わるのではなく、新たなチャレンジが生まれてくる熟議が広がっていけばいいなと思います。

受け継がれる桜守活動

今年も和坂小学校の 3 年生が環境体験で取組んでいる、「わさかっこ桜守プロジェクト」の様子を紹介する桜守パネル展が明石公園パークギャラリーで 3/23 から 3/29 までの 7 日間、開催されます。毎年、春になると私たちを楽しませてくれる「ソメイヨシノ」ですが、その「ソメイヨシノ」の樹勢が全国的に衰え始めている現状があることは意外と知られていないのではと思います。「さくらの名所 100 選」にも選ばれている明石公園も例外ではなく、現在樹木医さんを中心に樹勢回復のため、桜守ボランティアさんが活動されています。明石公園の桜を守る、樹木医さんやボランティアさんとつながり、和坂小学校の 3 年生も明石公園の桜守活動に参加しながら、自分たちの学校、自分たちの地域の桜にも目を向け活動し始めて 6 年がたちます。桜をとおして、地域の課題に目が向き始めた子どもたちも多いのではと思います。この活動が地域に根付き、広がっていけばいいなと思っています。

中学生が答える生の中学校生活



朝霧中学校の生徒さんたちが、「もうすぐ中学生！疑問・質問受け付けます」という、小学校 6 年生の質問に答えるという面白い取組がおこなわれました。小学校 6 年生が持っている中学校生活に対する寄せられた質問に、朝霧中学校の生徒全員が回答し、生徒会で選び「もうすぐ中学生！疑問・質問受け付けます」回答集としてまとめ、6 年生に配られました。6 年生も生の中学校生活の情報をもらえ、中学校生活への期待もふくらんでいるのではと思います。まとめられた回答は、なるほどと思うものばかりです。

質問・解答例）
Q. 算数から数学に変わることで一番の違いは何ですか？
A. 算数は実用的な計算で正確な答えを導くことがねらい、数学はなぜそうなったかを考え、数字や記号を用いて論理（すじみちを立てて考える様子）的に説明することが目的となっていま

（文責：北本）